

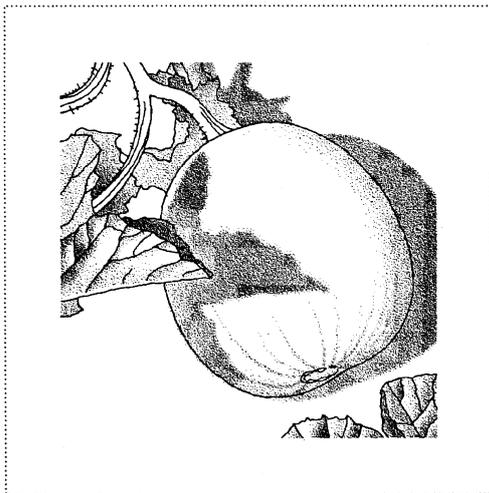
## 各子づる 2-3果に摘果

— 鮫島 國親



上品な香りと甘味が魅力のメロン。ミネラル類も豊富で、余分な塩分を体外に出す作用のあるカリウムを多く含んでいます。種類は、栽培しやすいマクワ型から熟練を必要とするアールス系まで多種多様です。今回はマクワ型（プリンスPF）などメロンのトンネル早だし栽培を紹介します。

発芽適温は30度、生育適温は15-25度です。トンネル栽培の種まき適期は1月中旬-2月中旬、定植期は2月下旬-3月下旬です。育苗はハウスを利用します。は種箱で発芽させた後、直径10センチ鉢に移植します。鉢土は3カ月以前に山土とよく腐熟した堆肥を7対3の割合で準備し、これに10センチあたり苦土石灰100グラム、BMヨーリン50グラム、油かす30グラムを施用し、よく混和します。育苗期間中は加温が必要です。日中25-30度、夜間10-15度に管理し、35日程度、3-4枚（摘心4枚）で定植します。



本ぼは日当たり、水はけのよい畑を選び、1平方メートル当たり、苦土石灰100グラム、堆肥3キロ、化学肥料70グラム（三要素15%の場合）を目安として施します。うね幅2.5メートル、株間65センチに、株元がやや高くなるくらいに浅植えし、子づるを三本伸ばします。トンネルの幅は1.5メートルで、透明ポリをマルチし、厳寒期は二重トンネルを設置します。定植後は日中30度、夜間10-15度を目標にトンネルを開閉します。子づるはY字形に誘引し一株ごとに交互に配置します。20節で摘心し、孫づるを伸ばします。なお、6節までの孫づるは除去し、7-12節の孫づるに着果させます。孫づるは2節で摘心します。授粉は外気温が高くなり

昆虫が活動するまでは、雄花を用いた人工交配が必要です。多く著果した場合摘果し、各子づるに2-3果残します。整枝等の管理は晴天日に行います。トンネル開放後寒冷紗などで被覆するとアブラムシ、ウリハエなどの侵入防止に効果があります。マクワ型の成熟日数は40日程度です。ためし切りを行って適期に収穫しましょう。

(鹿児島県農業開発総合センター副所長)

平成19年1月11日(木) / 南日本新聞